

# 新下郷農協物語

農産物輸入自由化、新食糧法、新農政に加えて住専問題を抱えて農業協同組合のあり方が問われている今日、本著の発刊はまさに期を得たものと思われる。奥組合長の下郷農協（大分県耶馬溪町）における五十年にわたる実践を具体的に、組合長自身とルポライターの矢吹氏が生産

## 要求実現を生産者のロマンとして

で、組合員の要求については一見農業協同組合としては異質ととらえられかねないものについても積極的にとりあげ要求実現のために積極的に働くひたむきさを感じる。橋の改修、車のスピード制限、日雇いの通勤費から保育所問題、そして診療所の建設など組合員の要求は農協の要求とし

を主人公として組合員の発想・総意と英知を大切にしていこうという奥組合長の協同組合にたいする基本的な考えが、素晴らしい下郷農協を作り上げてきたものと思う。  
「産直の未来は職員と消費者の未来にかかっている」とのべられていることとあわせて、あらためて協同組合の原点を教え

者のロマンとして生きいきとして描き出している。

安心安全な食べ物の生産を、当たり前のこととし、山間地という生産にとつて厳しい条件下における農業のあり方と位置づけ、消費者との共同の運動としてとりくまれてきた。

下郷農協のとりくみの姿勢のなか

ている。このことが、町づくり、村おこしなどにつながり、協同組合の社会への貢献となっている。

全国で農協の大型合併が急速に進められているなかでの山村の小さな農協における実践における協同組合のあり方を教えてくれる。農業生産にたいする誇りと、農協における民主主義を徹底しておこなう、組合員

を

（柴田光郎・大阪よどがわ市民生活協副理事長）

（シーアンドシー出版発行・生活ジャーナル発売 四六判 一五〇

〇円）